

# 米の銘柄に使用される文字

諸田 萌香 23B41478  
東京工業大学 生命理工学院

## 1. はじめに

我々は文字の音に特定の印象を抱きがちである（音象徴という）。よって、商品名は商品のイメージに直結する。

米の銘柄を例にとり、「米の銘柄にはカ行の文字が多く使用されているのではないか？」という予想の元、米の銘柄に使用される文字の頻度について調査する。

## 2. 方法

『令和4年産うるち米の道府県別作付上位品種』（上位3品種が表記されている）のうち、銘柄が平仮名または片仮名のみである計39品種について、pythonを用いて各文字の個数を数え、行・段ごとに分類する。（同一の音の平仮名・片仮名は同一の文字として数え、今後は全て片仮名で表記する。）

## 3. 結果

表1：  
米の銘柄の行音頻度

行	個数
カ行	33
ラ行	21
マ行	20
サ行	18
ハ行	18
タ行	17
ナ行	17
ア行	16
撥音 (ン)	7
バ行	5
ヤ行	4
ガ行	4
ザ行	2
ダ行	2
長母音	2
ワ行	1
パ行	1

表2：  
米の銘柄の段音頻度

段	個数
イ段	56
ア段	46
オ段	32
ウ段	26
エ段	19

表1より、行音頻度については、カ行が他と大きな差をつけて頻度が高く、次いでラ行やマ行も頻度が高い。また、濁音・半濁音は頻度が低い。

表2より、段音頻度については、段による顕著に差が見られる。中でも、イ段が最も頻度が高く、最も頻度の低いエ段と比較すると3倍高い。特に、末尾がイ段の銘柄（「コシヒカリ」「あきたこまち」「ななつぼし」など）が多くみられた。

## 4. 考察

文献より、各行・段のもつ音象徴と関連付けて考察する。

### ●行について

最も頻度の高かったカ行は「かたい」、2番目・3番目に頻度の高かったヤ行・マ行「やわらかい」、といった音象徴を持つ。米の銘柄には質感を表す文字が多く使用されていることが分かる。

また、全体として頻度の低かった濁音は「強い」「重い」「大きい」「男性的」といった音象徴を持つため、米の銘柄には使用されにくいと考えられる。

### ●段について

最も頻度の高かったイ段は「小さい」といった音象徴をもつため、米の銘柄に使用されることが多いと推測される。

## 5. おわりに

米の銘柄に使用される文字の頻度について、各道府県の作付面積のデータより銘柄を抽出し、pythonを用いて集計した。その結果、行についてはカ行、段についてはイ段の文字が多く使用されていることが分かる。

### 文献：

- 公益財団法人 米穀安定供給確保支援機構 『令和4年産 水稲の品種別作付動向について』(p.4)
- 金田一晴彦 (1988) 『日本語新版 (上)』 岩波書店 (pp.128-132)
- 岩永嘉弘 (1990) 『売れるネーミング・買わせるネーミング』 同文館 (pp.200-204)